

¹阪本なつき、¹中野達也、¹佐藤学、¹中岡義晴、²森本義晴

¹医療法人三慧会 IVF なんばクリニック

²医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】

人工授精（以下 IUI）は高度生殖補助医療と比較し、患者の経済的負担や身体的負担も少なく、不妊治療の第一段階として広く用いられている。しかし、IUI における精子調整後の精液所見と妊娠の関係についての検討は少ない。本検討では、精子調整前後の精液所見が妊娠に関係するのかを比較検討した。

【方法】

2016 年 1 月から 2020 年 12 月の期間に当院にて IUI を施行し、妊娠判定まで経過を追うことができた 5782 周期（妻平均年齢 35.4 ± 4.3 歳）を対象とし、調整後の運動精子濃度が① $1.0 \times 10^6/\text{ml}$ 未満、② $1.0 \sim 9.9 \times 10^6/\text{ml}$ 、③ $10.0 \times 10^6/\text{ml}$ 以上の 3 群に分けた。精子調整には複層密度勾配遠心法を用い、分離した精子は $500 \mu\text{l}$ の培養液で調整し、注入した。GS の認められた周期を妊娠とした。検討 1 では、IUI 施行時の妻平均年齢、精液量、精子調整前の総精子濃度、運動率を、検討 2 では妊娠率を比較した。

【結果】

（検討 1）IUI 施行時の妻平均年齢は、①35.0 歳 vs. ②35.3 歳 vs. ③35.4 歳で 3 群間において差はなかった。調整前の精液所見において、精液量は①2.1ml vs. ②2.2ml vs. ③2.6ml と③群で増加した ($p < 0.01$)。また、総精子濃度は① $19.5 \times 10^6/\text{ml}$ vs. ② $34.7 \times 10^6/\text{ml}$ vs. ③ $72.3 \times 10^6/\text{ml}$ 、運動率は①34.0% vs. ②44.4% vs. ③58.0%で調整後の濃度依存的に高くなった ($p < 0.01$)。（検討 2）妊娠率は①2.3% (5/214) vs. ②5.0% (66/1312) vs. ③7.6% (324/4256)と③群で高かった ($p < 0.01$)。

【結論】

乏精子症の患者における IUI の妊娠率は、非乏精子症の患者よりも低下した。しかしながら、処理後の運動精子濃度が低値であっても一定の妊娠例があった。本検討で得た結果は、患者へのより正確な情報提示と、今後の治療方針を決定するうえで役立つと考えられる。